

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

感謝しつつ支えたい

日本基督教団 全国教会婦人会連合 中央委員長 渡辺 多恵子



「信愛荘」と「にじのいえ」とが合併して、3年になるうとしています。合併にいたるまでの長い道のりを思い起こし、このことに中心的に関わった方がたのご労苦に改めて心より感謝いたします。そして、「にじのいえ信愛荘」のすべての歩みを主がお守りくださっていることを覚えます。それぞれ異なった歴史をもつ両施設が合併し、具体的に運営していく時、さまざまな課題があると思います。しかし、両施設の願いは共通です。全国教会婦人会連合の婦人献身者ホーム「にじのいえ」は、隠退後の婦人教職と逝去牧師夫人の方がたが、明るい第二の人生を送る施設を目指しました。「信愛荘」も隠退教職とその夫人の方がたが平安な日々を過ごすことを願って運営されてきました。この願いを共

有しつつ、東京教区、西東京教区と共に婦人会連合は、運営母体として関わる責任を果たしていきたいと願っています。

「にじのいえ」に関わる者の合言葉は、「終わりなき奉仕」でした。施設の建設も大変な事業ですが、いわゆる箱物をつくれれば済むのではなく、むしろそれを維持運営していくことの課題を自覚した合言葉といえると思います。なぜなら教団の隠退教職ホームという特別な意義をもつ場なのですから、その生活の質までも問われます。

婦人会連合では2年1期をサイクルに、期ごとの主題と活動方針を定めています。この活動方針の一つに、今期も「隠退教職ホーム「にじのいえ信愛荘」のために祈り、積極的に支える」と掲げました。なによりも大切なのは、全国の教会、教会婦人たちが祈り、献金をささげていくことです。そして具体的な働きは、にじのいえ信愛荘協力委員会が担っています。奉仕部の働

きと共に、「青梅のにじ」第6号に掲載されていますように荘への訪問など計画し、支援の輪をひろげるよう目指しています。全国の支えによって成り立っているのですから、各地の委員にも実際を知り、入荘の方がたと交わる時をもっていただきたいと願っています。訪問によって与えられる恵みがあります。私は荘のクリスマスに参加していますが、共に礼拝をささげ祝会をもち、入荘されている方がたの歌声を聞くなど励まされます。

教団が主イエス・キリストの体である教会をたて、福音を宣べ伝えていくためには、働き人である教職が必要です。「収穫は多いが、働き手が少ない」(ルカ10・2)。そして教職が、本来の使命に専念できるように教会全体が整えられていくことが大切です。隠退された教職への備えとしての「にじのいえ信愛荘」もその一翼を担っていると思えます。先生方が平安に過ごされ、しかも終わりの日に至るまで信仰の喜びにあふれた生き方が証しできるように願ひ、共に支えていきたいと思います。

(西東京・十貫坂教会員)

イースターの喜びを共に
にじのいえ信愛荘

2013年3月31日イースターの翌日の4月1日(月)午前10時半より、にじのいえ信愛荘では、来賓の方々をお迎えして、入荘者、スタッフ、運営委員の総勢58名が一堂に会し、イースター礼拝を捧げ聖餐式に与りました。

【礼拝】チャペル

司式 長谷川淳子師
奏楽 横山利江姉

頌栄 栄 546

主の祈り

交読詩編 100編

聖書 マタイによる福音書27章61節、28章1〜8節

祈禱

讚美 146

説教 「さあ、見なさい」

祈禱

讚美 151
石橋秀雄師

使徒信条

聖餐式

讚美 205

献金感謝 541

祝禱

祈禱

祝禱

【説教】「さあ、見なさい」

教団総会議長
関東・越谷教会牧師

石橋 秀雄



先週私は台湾
に行つて来まし
た。台湾基督長
老教会が東日本
大震災のために、何と三つの特
別集会を開催してくださったの
です。台湾からは既に8,200
万円もの献金が寄せられていま
すうえに、昨日のイースターに
は、さらに、1,400もの教会
に献金を呼びかけてくださった
そうで、感謝の思いで一杯です。

さて、東日本大震災以来、私
は被災地に足を運んでおります
が、その中で、度々訪れる「荒
浜」という場所があります。実は
《悲しみの土台》と私は呼んでい
るのですが、凄まじい津波の破
壊によって家が流され、土台だ
けになった所です。この悲しみ
の土台に行き、何度も祈りまし
た。

昨年8月にこの地に尋ねた時、
この近くの農家の方が「津波から
1年半たつが、あそこには恐ろ
しくていまだに近づけない」と言
いました。家族も全て破壊され

て、多くの犠牲者の悲しい姿を
さらす地獄図となった場です。
このような絶望の場、悲しみの
土台を直視することができると
しようか。

2011年3月11日2時46分
以来、特に心に残る御言葉が、
マタイ福音書27章61節「マグダ
ラのマリアともう一人のマリアと
はそこに残り、墓の方を向いて
座っていた」です。主イエスの死
のお体が納められている墓の前
に座る二人のマリア、この簡潔
な言葉が心に残ります。

7つの悪霊に取り付かれたマ
グダラのマリアは、この悲惨か
ら主イエスによって救われ、主
イエスに従う喜びにあふれて歩
んでいた。しかし、愛するイエ
スはあつげなく十字架で殺され
て墓に納められた。この墓の前
に座る二人のマリアの嘆きをマ
タイは記さない。ただ墓の前に
座る二人のマリアの姿を簡単に
記す。到底直視し得ない絶望の
場、悲しみの土台を直視させる
のだ。主イエスの死を直視させ
るのだ。

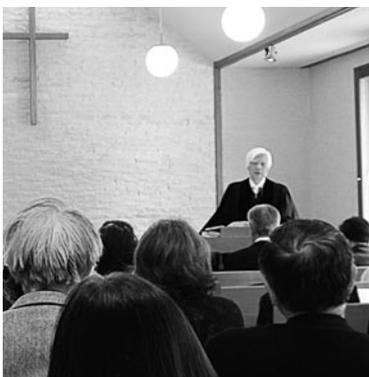
復活の朝、墓に行った二人の
マリアに、絶望の墓に天使の言
葉が響きわたる。マタイ福音書

28章6節「あの方は、ここにはお
られない。かねて言われていた
とおり、復活なさったのだ。さ
あ、遺体の置いてあつた場所を
見なさい。」

「さあ、遺体のあつた場所を見
なさい」、「さあ、絶望の場を見な
さい」、「さあ、見なさい」、この
悲しみの場が喜びの場に変わり
ます。墓、悲しみの土台、ただ
ただ悲しいだけ、到底直視し得
ない場が、主の復活の場に変わ
り、絶望が喜びと希望の場に変
わりました。

8節「婦人たちは、恐れながら
も大いに喜び、急いで墓を立ち
去り、弟子たちに伝えるために
走つて行つた。」

「私たちもまた、復活された主
イエス・キリストを高らかに賛
美する者でありたいと思います。」



【祝会】ホール

司 会 萩生田 明施設長

祝会はまず、「にじのいえ信愛荘クワイア」による主の復活の讃美で、幕は開けられました。土屋恵子師を中心に地道な継続によって、いよいよ爽やかな、澄みわたる調べを披露され、心が洗われる思いでした。

今回、来賓としてお迎えした石橋秀雄教団議長に、礼拝説教と聖餐司式をしていただき、さらに祝会でのユーモア溢れる祝辞も頂戴しました。

また、前荘長の久山庫平牧師からも祝辞があり、角谷多美子運営委員長から挨拶がありました。祝会には、東京教区西南支区音楽部の皆さんが参加されました。オルガン独奏もはさんで、西南支区音楽部は今回は終始リード役となってくださり、主の復活をテーマとした讃美歌5曲を、出席者全員で歌い、復活の喜びの讃美が、荘内中に響きわたりました。

和やかな雰囲気の中、有馬歳弘荘長の挨拶をもって閉会になりました。(成松三千子報)

イースターと讃美



土屋 恵子

讃美歌を聴き、歌い、当たりの前のように過ごして来たはずですが、神様を讃美できることは、はかり知ることのできない大きな恵みであることを、やっと知りました。神様は語ってください。私はここにいて、あなたを守っている。あなたを支えている。決して、見捨てな



「にじのいえ信愛荘」クワイアによる讃美

い。安心しなさい。でもイエス様、私の担う十字架は重いのです。転びそうです。私が一緒に担ってあげる。そうだそうだ。イエス様がおられた。私は慌ててイエス様につかまり、ほっとします。イエス様は意地悪だと思ふ時もそうでなかったことが、後になって判るのですが、その時、私は見捨てられていなかったことに喜びを覚えます。イエス様といいながら、自分かたに生きて来た時間が余りにもながかったことに愕然としました。その間、イエス様は忍耐深く待っていてくださった。イエス様の隠れた所、呼びかける声かとどくのを、私は歌いながら、どのように従うのが、イエス様に喜ばれることかを知らされてきます。そのたびに、私は新しくされるということを知らされます。

ことしのイースターは、新しい命の喜びを伝えたいと願いました。無駄に過ごした時間は讃美によって、主の証人であることを証することしかありません。そのような思いにとらわれました。

年をとっても、讃美歌を歌うことに喜びを覚えておられる

方々が、ここに居ることはやはり、神様の大きな恵みです。神様は、私たちが讃美できるものとして創造されました。年をとっても、正しい呼吸法、発声法、言葉の発音を、根気よく学べば誰でも讃美はできるのです。できない所は神様に助けていただけばよいのです。皆が立派な歌手になるのではなく、心を合わせて讃美する。それは私たちの祈りでもあり、それが私たちの残りの生涯を主と共に歩み、宣教者として、イエス・キリストに迎えていただける希望を与えてくれるものと信じています。

クワイアに集う方もそれぞれ病気や障害と闘っておられます。コーラスができること自体不思議なことです。それぞれの十字架を担いながら、喜んで讃美し祈りつつ歩んでおります。私自身も忘れかけたことが多く、かなり無理かなと思う要求もしたのですが、皆さんは喜んで一生懸命励んでくださるので、ここにも神様の大きな恵みを覚え、感謝しております。



青梅と平将門伝説



柏井 宣夫

「にじのいえ信愛荘」は東京の青梅にあります。

青梅とは美しい地名だと思いません。何か由来がありそうです。梅の名所でしょうか。確かに梅の名所はありますが、後からできたようです。青梅の名はもともと古いものです。

1、青梅という地名の由来

これが何と平将門にちなむそうです。青梅駅の近くに金剛寺があります。その本堂の前に誓いの梅の木があり、この梅の実は秋になっても青々していたそうです。そのため平将門が「青梅」と土地の名を呼んだといいつたえられます。

青梅の西の方、奥多摩町には平将門神社があります。この伝説の背景には、平将門の子孫と称する三田氏が青梅を本拠とする地方豪族だったことがあります。三田氏が平将門の子孫を名乗ったのは何

故であろうか。これには次のような説明があります。「三田氏は新しい時代中世の武士、地方領主としての誇りと正統性を、中央に対して実力で対抗した平将門に、求めたのではないでしょうか。(中略)同時に、中世の多摩地方の豪族たちが、中央政府に反抗した平将門という人物に、いかに尊敬の念をもっていたか、またこのような『由緒』をいかに大切にしていたかをうかがい知ることができます」(『青梅歴史物語』より)。

2、東京と平将門

もともと広く東京では神田神社に平将門が祭られています。ここは江戸の総鎮守として、徳川幕府が特別に尊重しました。将門の怨霊が次々に祟りを起こすことを恐れ、たからです。明治になると、将門は逆臣(天皇への反逆者)であるという点で、祭神からはずされました。平将門が「新皇」(新しい天皇)と称したからです。ところが災厄が続いたので、遂に関東大震災後、1934年、祭神にもどされ、今日に至っています。この他東京には大手町に将門の首塚があり、浅草の鳥越神社に将門の手、新宿の筑土八幡に将門の足がまつられ

ているといわれています(『東京都の歴史散歩』より)。この筑土八幡の近くに小学生の頃住んでいたことがあります。

このように、近代都市東京には平将門の亡霊が長く影響を残しています。



相馬野馬追の騎馬行列

3、相馬野馬追と平将門

私の最後の任地は、福島県の太平洋岸北部にある鹿島でした。ここは相馬地方にあり、ここでは七月下旬に相馬野馬追という伝統行事が行われます。これは騎馬軍団の行進、神旗争奪戦、競馬などが行われます。東日本大震災後にいったん縮小されましたが、その後元に戻っています。この野馬追の行事も平将門にちなむと言われる

ます。将門が下総(現在の千葉、茨城)で騎馬軍団の練習をしたことに由来すると言われます。この地方を支配した相馬氏は、もと下総が本拠であり、平将門の子孫を名乗り騎馬文化を導入したことにより(『考証相馬の歴史探訪』より)。

4、平将門伝説の広がり

最後に京都の中学では、私は毎年比叡山に歩いて登っていましたが、その頂上近くに将門岩がありました。これも将門伝説のひとつでしょう。

平将門伝説は関東と東北の各地に長く影響を残しました。伝説の力を知ることが重要です。

平将門という人は十世紀、下総(現在の千葉、茨城)を本拠としましたが、かえってその死後になって各地の民衆に知られ、将門伝説を残しました。京都の中央政権からは反乱者でしたが、関東の独立を企てた英雄として人気がありました。将門自身は桓武天皇の子孫と称しましたが、無位無冠の人で、生前の活動は短期でしたが、死後の人気は長く続き、青梅など多摩地方にも今日まで残りました。(この文章の一部は、先に他の所に発表したことがあります)



笑顔に出会う

月に一度のお茶の会

弓削 延子

青梅はこの季節、山笑うの季節そのままの美しい新緑が「にじのいえ信愛荘」の背後に建物を囲うように見られます。

玄関には荘のお庭の花が挿されいつも迎えてくれます。

2004年の6月、お茶の会にお抹茶を立てると水野様からお誘いを受けて伺ったことが、お茶の会のメンバーに加えていただく始まりでした。そして2003年から続けられたお茶の会は、2010年の6月に館山の「にじのいえ」が「信愛荘」と合併し、尊いお働きをなさった先生方のお住まいが新しくされ、再開しました。

今まで多目的ホールで行っておりましたお茶の会も、新しい食堂で持つことになり、食堂に付属しているキッチンも広く整えられました。

毎月金曜日の一時半からでしたが、現在は第一月曜の一時半からに変更されております。

入荘の先生方と牧師夫人方

中には、天国に召された方、入院されている方、体調を崩されてお茶の会にお出になれない方もいらつしゃいますが、きつと又お会いできると、次の機会におめにかかれました時は、喜びが倍増いたします。

お茶の会はいつものテーブルの並べ方を変えて、大きく一つに囲み、アナウンスによって始められます。栗谷様の手造りケーキ、津崎様の和菓子、それに色々のアイディアのお菓子が添えられて、コーヒー、紅茶、日本茶、そして年二回ほど抹茶の日もあります。

お茶のサービスが一巡した頃私たちもお仲間に入り、先生方と沢山お話しをします。このお喋りタイムが楽しい笑顔の時です。

昨年の5月頃より青梅教会員の和久井様が、アコーディオンを演奏して、小学唱歌や讚美歌を皆様と合唱する時が与えられ、さすが先生方、その歌声の美しいこと、小学唱歌も昔を思い出すことしきり、笑顔がこぼれます。

しかし、お茶の会のメンバーも、二年前の5月に藤永様が天

国に召され、昨年3月に津崎様のご家庭の事情で辞され、栗谷様も榛名のホームに入居されるため、昨年秋に辞される等変化がございました。お茶の会に深くかわつておられた高橋管理人ご夫妻も辞されました。帰途の車で、お世話になったことなど、感謝で一杯です。

その後、水野様、松木様、私その他に、栗谷様がいらつしゃつた目白町教会から、犬塚様がメンバーに加われ、もうお一人青梅にお住いの鈴木様が、奉仕者として与えられ、新しい息吹が吹き込まれております。

手造りケーキや和菓子がなくなり、一時はこれは大変と思いましたが、知恵を出し合つて、水野様がその都度素晴らしいアイデアをくださり、お皿の上を楽しくしております。

この会が入荘の先生方の上に良き時となりますように。

このお茶の会には、この会を提案なさいました前々主事の飯野様、前主事の池田様、「にじのいえ」にご奉仕なさいました福田様ご夫妻、岩戸様方も参加なさいます。

毎月第一月曜日、どなたでも

この会にいらつしゃつてくださいます。先生方の笑顔に出会えますから。

最後に私事でございますが、信愛荘入荘第一号として私の伯母、婦人伝道師でした大竹日出能がお世話になりました。

感謝を「ご奉仕でと存じます。

(西東京・阿佐ヶ谷教会員)



近況報告

庄長 有馬 歳弘

春と共に、ここ青梅の自然は沢山の花の色と香りに満たされ、新緑の生命の漲りに溢れています。庄の庭も、それぞれの管理するコーナーでは手入れもよく

期待どおりの成長で応える草花が、美しく咲いています。食堂の窓から見える庭も、二年目を迎えて少し落ち着きを見せる景色になってきました。若者が成長するには、もう少し時間が必要なようです。ゆっくりと親しむために、ベンチやテーブルも配置されています。



梅見会 (青梅市梅郷 梅の公園)

今年度は丁度良い時期に、観梅の行事がありました。山一面に紅白の梅が香りよく咲きそろう、堪能した一日でした。最後に、おいしいお蕎麦で仕上げました。すこし日を置いて、近くの公園で桜の花見もいたしました。続いてつつじの花も、という声が聞こえていますがそれはどうなりますか。

食事は、楽しみでもあり、健康維持に大切です。相談を重ねて、年配者にあつた献立になっています。冷凍野菜も使われていますが、できるだけ生鮮野菜を心掛けるようにしています。

調理をされる方が気を遣ってくださり、時折、沢山釣ってきた魚をプラスしてくださったり、実家から送られて来た山菜を出してくださり、豊富な食卓となっています。感謝です。

庄内のフロアがすっかり黒ずんでいましたので、新しいポリッシャーを使って漂白剝離をしてワックスをかけ、とても清潔になりました。スタッフをはじめ他の方も手伝ってください、自分たちで仕上げる事ができました。電気代の使用料の値上がりもあって、昨年に比べて支

出が多いと事務長から報告を受け、節約に励んでいます。

在庄の皆様は大きな変化はありません。定期的に病院に通っておられる方もあり、月一回に医師が来てくださって健康診断も受けています。

退庄された方はお二人です。安西貞子先生 高崎市にある老人ホームに移られました。

大里和子さん 呼吸が困難となつて酸素ボンベを使用していました。が、庄の管理のもとでは無理との医師の判断で、ご家族がその設備のある病院を選んで移られました。

今、一人部屋と夫婦部屋に余裕がありますので、受け付けることができます。入居ご利用ください。



桜見会 (青梅市 釜ヶ淵公園)

運営委員会報告

運営委員長 角谷 多美子

平素より「にじのいえ信愛荘」をお覚えいただき、心より感謝申し上げます。お陰さまで、昨年度も予算が満たされ、無事に運営することができました。

昨年10月の教団総会において、「にじのいえ信愛荘」は正式に教団のセンターとなりましたので、あらたに「センター規則」に則つて運営委員会の組織が変わり、委員が4名増えて15名と監事3名となりました。(括弧内選出母体)

委員長 角谷多美子 (教団)

庄長 有馬歳弘牧師 (教団)

書記 須藤 繁 (教団)

齋藤 孝 (東京教区)

財務 齋藤 孝 (東京教区)

澤田竹二郎 (東京教区)

砂田巳智子 (婦人会連合)

西村 佳子 (西東京教区)

寺澤 縫子 (西東京教区)

砂田巳智子

鈴木 功男 (教団)

成松三千子 (婦人会連合)

阪口 和美 (婦人会連合)

飯澤 弘子 (婦人会連合)

小平 正宣 (東京教区)

朝岡 瑞子 (教団)

監事

・奥澤 行雄 「用賀教会」

・高津 博 「大宮前教会」

・樋田 利明 「富士見町教会」

・印は新委員、現在運営委員1名欠員



新委員・前列より 樋田、奥澤、澤田、須藤、委員長 寺澤、高津、阪口

新運営委員 自己紹介

阪口和美（神奈川・神奈川教会）

全国教会婦人会連合の推薦を受け、運営委員会の一員に加えていただきました。お役に立てれば幸いです。広報担当として今回、初仕事となりました。

澤田竹二郎（東京・白金教会）

東京教区より運営委員に選任されました。財務を担当させていただきます。誠に微力ですが、主よりのご委託と覚え、僅かでもお役に立てればと思います。

須藤 繁（東海・谷村教会）

教団より推薦され、書記を担当いたします。18歳で受洗。24歳から60歳まで裁判官として転任のたび教会を転会。現在は弁護士で、富士の麓にある谷村教会員です。

寺澤縫子（西東京・原町田教会）

西東京教区より運営委員の一人として、募金を担い奉仕するようにと仰せつかりました。主に導かれつつ用いていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

チャリティコンサート お礼と予告

募金委員会 西村 佳子

昨年の晩秋には、青山学院ガウチャー記念礼拝堂での青山学院大学ハンドベル・クワイアとバイオリン（工藤美穂氏）のチャリティコンサートに、ご協力くださいましてありがとうございます。4月に入部した学生も交えてのハンドベル演奏に、若者の力強さを感じながら、バイオリンリストが奏でる音色にしばし時を忘れ、二者の絶妙なマッチングに感動いたしました。834、131円が捧げられました。



予告 チャリティコンサート

・出演者

バリトン 青戸 知氏

ソプラノ 一小路千花氏（青山教会員）

・日時 11月23日（土）

午後2時～4時（青山教会員）

・場所 東洋英和女学院

マーガレット講堂

青戸氏の朗々たるバリトンと、

一小路氏の磨かれた伸びのある

ソプラノをご堪能いただきたく、

皆さまのご来場を心からお待ち

しています。

維持献金のお願

にじのいえ信愛荘を今後も継続的に維持していくために、一人でも多くの皆さまからの、維持献金のご協力をお願いします。専用の献金袋（個人も用意しています）のご利用の上、各教会でまとめてご送金ください。

・振込口座番号

001200-3-358467

・振込用紙・専用献金袋は

にじのいえ信愛荘事務局迄

電話0428-22-2283



施設長 萩生田 明

●2012年11月

- 2日(金)尾作聖子姉宿直奉仕
- 5日(月)お茶会
- 6日(火)国分寺教会(12名)来莊
- 9日(金)石井幸子姉宿直奉仕
- 10日(土)東支区壮年委員会(9名)
- 15日(木)南三鷹教会(9名)来莊
- 16日(金)池田節子姉宿直奉仕
- 20日(火)高橋茂管理人及び
高橋恵子生活主任(莊母)送別会
- 23日(金)浅見多恵子姉宿直奉仕
- 24日(土)青山学院でのチャリ
ティーコンサート参加(5名)
- 萩生田猷児兄パート職員に
25日(日)靈南坂教会による
収穫感謝訪問(13名)
- 27日(火)もみじがり(17名)
- 石井幸子姉パート職員に
28日(水)藤井英子姉日勤ボラン
ティアに
- 30日(金)北島和子姉宿直奉仕

●2012年12月

- 4日(火)和久井義夫兄賛美奉仕
- 7日(金)会田怜子姉宿直奉仕
- 13日(木)防災訓練(厨房出火)

- 14日(金)金井弓子姉宿直奉仕
- 18日(火)東京聖書学校(22名)来莊
- 21日(金)辻哲子師祈祷会泊
- 23日(日)青梅キリスト教会(18
名)来莊

●2013年1月

- 24日(月)青梅教会(12名)来莊
- 26日(水)クリスマス(62名)
- 28日(金)関口朝子姉宿直奉仕

●2012年2月

- 2日(水)成松三千子委員宿直奉仕
 - 4日(金)竹田佳地子姉宿直奉仕
 - 7日(月)お茶会(22名)
 - 11日(金)阪口和美姉宿直奉仕
 - 18日(金)尾作聖子姉宿直奉仕
 - 25日(金)吉田和子姉宿直奉仕
- ・介護車導入(助手席回転昇降)

●2012年3月

- 1日(金)浅見多恵子姉宿直奉仕
- 4日(月)お茶会(25名)
- 8日(金)尾野明子姉宿直奉仕
- 15日(金)池田節子姉宿直奉仕
- 22日(金)辻哲子師祈祷会泊
- 28日(木)運営委員会荘で開催

20日(水)梅見会(15名)

22日(金)砂田巴智子委員宿直奉仕
26日(火)防災訓練(地震対策)
安西貞子師退莊

29日(金)桜見会(12名)、
関口朝子姉宿直奉仕

・めぐみ棟空調機交換完了
・北側隣地境柵設置工事完了

●2012年4月

- 1日(月)イースター(58名)
- 5日(金)竹田佳地子姉宿直奉仕
- 8日(月)お茶会(24名)
- 12日(金)尾作聖子姉宿直奉仕
中庭に春花植栽
- 14日(日)東京・西東京教区墓前礼
拝(6名)
- 15日(月)西東京教区礼拝・宣教・
壮年各委員会(4名)
- 19日(金)辻哲子師祈祷会泊
大里和子夫人退莊
- 26日(金)松田町子姉宿直奉仕
・清掃用ポリッシュャー機導入に
よるA棟床の剥離洗浄を実施

※岩戸五郎兄毎日曜日宿泊奉仕

※和久井義夫兄毎火曜日宿泊奉仕

※野口真一兄毎木曜日宿泊奉仕

※井上医院には毎月巡回健診、
北島齒科医院には巡回健診と
治療のお世話になりました。

第7号をお届けします。ご
執筆くださいました皆さまに
は心から感謝申し上げます。

私たちは、ご入莊者の皆さ
まに親しく目を通していただ
ける広報誌を目指しています
が、同時に「青梅のじ」をと
おして、「にじのいえ信愛荘」を
全国の教会の皆さまにご理解
とご協力をいただくことも
願っています。

さらに、現役で奉仕されて
おられる教職方と配偶者の皆
さまにも、ご隠退後の選択肢
の一つとして、緑豊かな青梅
にこうした教職ホームがあり
ますことを知っていただくた
めでもあります。

最後に、東日本大震災被災
地に立つ教会・伝道所と教会
員のために祈ります。復興の
ために日夜努力されておられ
る方々のご健康が守られます
よう、被災地に主のご臨在を
祈っております。(成松三千子)

編集委員会

- 石井泰子 (小松川教会)
- 岸 俊彦師 (経堂北教会)
- 黒沢咲子 (下谷教会)
- 阪口和美 (神奈川教会)
- 鈴木功男 (目白教会)
- 長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)